

PTA広報紙コンクール審査講評

審査委員長 松本 英史
(元山陰中央新報社論説委員長)

総 評

昨年度、4紙が全国入賞の快挙!!

審査委員長を引き受けて20数年。昨年度の審査講評で、二つの目標があったと書きました。一つは全国コンクールで頂点の文部科学大臣賞を獲得すること、もう一つが全体のレベルアップを図ること。

最初の目標の全国トップは、一昨年に八雲中（松江市）の「星雲」が手中にし、遂にかないました。もう一つの目標の全体のレベルアップには、二つの見方があります。つまり、全国コンクールに送る10紙の入賞率を高める、もう一つは県下全体のレベルアップを図ること。いずれも、かなり高い目標と思っていましたが、なんと昨年度の全国コンクールで10紙のうち4紙が入賞し、最初の目標のレベルアップはいきなり実現してしまいました。記憶にある中での全国入賞の最高は3紙ですので、過去最高の成績を取めたのです。その4紙は、文部科学大臣賞に次ぐ2位の「日本PTA全国協議会会長賞」に乃木小（松江市）の「のぎっこ通信」、さらに「教育家庭新聞社社長賞」に十神小（安来市）の「学鍾」と安来一中（同）の「清流」がダブル受賞。一昨年度に最高賞の「文部科学大臣賞」を獲得した「星雲」も佳作に選ばれて入賞を果たす快挙でした。

文章にすれば、「ふうん、結構やるじゃない」と思われるかもしれませんが、全国入賞すること自体が、いかに大変なことを分かりやすく数字で紹介します。昨年度は全国から小学校で1784紙、中学校で992紙の応募があり、1次、2次、3次審査を経て最終的に小中合わせて22紙（ウェブを除く）まで絞り込まれるという難関中の難関。佳作も22紙中10紙しか選ばれていません。ざっくりいえば、全国2800紙の中で、島根県代表の4紙が優秀作と認められたのです。大リーグに例えるのはちょっと腰が引けますが、かの大谷翔平選手を大きく上回る打率4割は、とてつもなくすごいことなのです。詰まるところ、島根の上位は全国でも群を抜くトップレベルに達しているということなのです。

この全国トップレベルの立ち位置が、県全体のレベルアップを導きます。それは、どういうことなのか。毎年、県審査に応募したPTAには、県PTA連合会から県審査に応募した全紙が送られてきます。県審査に応募すれば、黙っていても全国トップレベルの広報紙が手元に届くわけです。トップレベルの紙面の作り、企画、見出しやレイアウト、写真の使い方などが居ながらにして学べ、トップレベル同士でも他紙と比較することで、さらなるレベ

ルアップする状況にあるわけです。全国でもまれな、この恵まれた環境を生かさない手はありません。

今回、事務局をお願いして過去 5 年間の県審査への応募数を調べてもらいました。すると、意外なことが分かりました。応募数が年々減少しており、特に小学校の減り方が顕著なのです。小学校の応募数を見てみると、令和 2 年度の 31 紙が翌年度は 26 紙、令和 5 年度には 21 紙、そして今回は 17 紙と、ついに 20 台を切ってしまいました。過去に応募数が減少した際には広報研修会を開催するなどの取り組みで V 字回復しており、関係者の奮起をお願いするところです。それと、広報紙を出していても、県審査に及び腰しになっている PTA も少なからずあるのではないかと推測します。臆するところは少しもありません。応募すれば全国トップ級の広報紙が手元に届くわけですから、これらを参考にして、言葉は悪いですが「いいとこ取り」をする、真似をする、話し合っ自分たちの色をちょっと付け加えるなどすれば、見違えるような広報紙になるのは間違いありません。

講評では毎年度、「審査の観点」を載せていますが、今回は日 P 連の全国コンクールの「審査基準」を紹介します。内容審査と印刷審査に分かれており、内容審査は、①PTA 活動の実態を掲載しているか②会員が関心をもって読む内容か③会員の生の声が反映されているか④積極的な企画性、アイデアがみられるか⑤社会教育の一環として地域との連帯感があるか⑥記事を生かす写真の利用がされているか⑦発行回数は適正かーの 7 項目。もう一つの印刷審査は①読みやすさ、見やすさ（編集・レイアウト）②印刷技術の良否（文字・写真）③全体の仕上がりーの 3 項目からなっています。

ちなみに県の審査基準は①全体の編集やレイアウト及び見出しが読みやすい②PTA 活動に役立つ記事が盛り込まれている③学校と地域、社会との密接な連携がうかがえる④積極的な企画性やアイデアが見受けられるーの 4 項目です。いかがでしょうか。県の審査基準と比べて、全国コンクールはかなり細分化し、基準そのもののレベルが上がっていることがうかがえますか。このハードルと、レベルの高い全国各紙の厚い層を乗り越えての全国入賞というわけで、その快挙には惜しめない拍手を送りたいと思います。

さて今回のコンクール審査。昨年度との大きな違いがありました。全体的に色遣いが明るくなったのが第一印象でした。過去数年はコロナ禍で閉塞感に覆われ、何もかもが制約される中での発行、終息後もコロナ禍の弊害ともいえるオンラインでの情報交換の影響が広報紙に歴然と表れていました。正直なもので、それらからの解放感や、みんなが集まって雑談しながら作る喜びといったものが広報紙に表れていました。

今回も県表彰（最優秀賞、優秀賞）を含めた全国コンクールに送る 10 紙の顔ぶれに大きな変化はありませんでしたが、その中であって初参加の出雲大社小（出雲市）の「かがやくひとみと笑顔の子」と、ここ数年応募し、ついにトップテンの仲間入りを果たした宍道小（松江市）の「しらほ」の健闘が光りました。

事務局の過去 5 年間の応募数調べでは、別の面白い傾向も分かりました。県表彰で最優秀賞となった広報紙は、全国コンクールで一昨年度を除いて 4 回上位入賞し、特に昨年度

は県表彰の3紙がいずれも入賞しているのです。唯一逃した一昨年も、優秀賞の「星雲」が全国1位を獲得しており、全国コンクールの審査員間でも島根県の実力が認識されているのではと思うのですが、うぬぼれかな。

結果は、最優秀賞に十神小（安来市）の「学鐘」、優秀賞に安来一中（安来市）の「清流」、八雲中（松江市）の「星雲」を選びました。校区が重なる「学鐘」と「清流」はしばらくダブル入賞が続いており、良き伝統が進歩しながら引き継がれていることに敬意を表します。この3紙が島根県表彰となります。

優良賞として、八雲小（松江市）の「まゆみ」、今市小（出雲市）の「ウキウキ発信」、乃木小（同）の「のぎっこ通信」、宍道小（同）の「しらほ」、出雲大社小（出雲市）の「かがやくひとみと笑顔の子」、湖南中（松江市）の「ひろばこなん」、青陵中（江津市）の「清流かわらばん」の7紙を選定しました。

以上の10紙が全国審査に送られます。おめでとうございます。そして、全国コンクールでの入賞を大いに期待しているところです。健闘をお祈りします。以下、全国コンクールに送られる10紙の講評を小学校、中学校別に載せます。

小 学 校

□応募数がついに20台割る

応募数は17紙。前年度より4紙減って10台にまで落ち込んでしまいました。毎年、高い評価を受けていた常連校の姿が見えなかったのが意外でした。どんな事情があったのでしょうか。ちょっと心配です。

最初に3年連続で最優秀賞に選ばれた「学鐘」から。県表彰の常連で、年々紙面が充実しており、実力は全国でもトップクラスといって間違いありません。モノクロに徹した玄人はだしの紙面を、ここ数年の県審査で繰り返し評価しながら、「全国審査で今一つなのが不思議、不可解」と以前指摘しましたが、昨年度ついに上位入賞を果たしました。その際の審査総評が「モノクロの紙面が印象に残る広報紙になりました。PTAの動きをきめ細かく情報提供し、好感か持てる。豊富な記事掲載に加え、その一つ一つの記事に読ませる工夫がある」。やっとモノクロに目が留まり、やっと認めてもらえました。

今回の審査でも、文句なしの最優秀賞でした。中でも出色だったのが2号。1号は入学、PTA役員・職員紹介、3号は卒業に紙面を割かれるため、2号が腕の振るいどころで、その表紙が蓑(みの)傘を被った児童のおどけた表情で目を引かせます。内容も「PTA活動」や「親学プログラム」、地元の企業などを親子で体験する「親子行事」、地域のボランティアとの「秋のさつまいも収穫祭」などが写真のサイズなども考えてうまく配置され、活動のそれぞれに参加者の感想が入れるきめ細かさはさすが。また、学習発表会ではQRコードを付けて演奏が聴ける配慮がなされ、定番の役員・職員紹介や卒業生の写真などにもポーズや指

サイン？などのちょっとした工夫がなされているのはさすがです。

次に全国審査に送られる優良賞5紙について触れます。

県表彰に次いで評価が高かったのが「まゆみ」で、全審査員から票を得ました。事務局の資料によると、4年前に登場し、全国審査でいきなり佳作に入って常連組に。「まゆみ」の面白さは、あまり型にとらわれないおおらかさでしょうか。「先生紹介」を1号と2号に分けて紹介し、それぞれ見開きの隣のページには1号では校長とPTA会長が仲良く肩を組んでVサインをする大きな写真をドーン、2号では学年行事紹介とアンバランスな構成なのですが「そんなの関係ない（古いギャグですみません）」。表紙の写真も1, 2, 3号とも全くトーンが違っているにもかかわらず、それぞれ味があり、ほんわかとした温かみを感じられるのです。児童を取り巻く環境がおおらかで温かいからこそ出てくる味なのでしょう。私的には5年生の学年行事「肝試し大会」に目がいきました。夜の校舎貸し切りで、保護者や教師がお化けに扮して潜むというイベントはとても面白く、メインで扱ってもよかったのかなと。ほかの学年行事とのバランスを考えて同じ扱いになったのでしょうか。惜しい。「夜になると、二宮金次郎が八雲中のプールに行くという噂（うわさ）は本当？」などの「八雲小学校大調査!」も興味深く拝見しました。

次に評価の高かったのが「ウキウキ発信」で、今回は1～3号の本紙のほか教職員とPTA新体制紹介のモノクロ特別号も出すというエネルギッシュさ。教職員紹介を別刷りにすることによってPTAの広報紙らしくなり、本紙も作りやすくなりますからね。とはいっても予算との相談なんでしょうけど。本紙は表裏表紙をチョコレート色の枠で写真等を囲む作りが伝統で、関係者は一目で「ウキウキ発信」と分かり、中面もPTA活動や親子活動特集などがカラフルにバランスよく紹介されていました。裏面1ページを使って写真を多用した6年生の親子活動「逃走中」は、ハンターに扮した保護者が児童たちを追いかける姿を楽しく拝見しました。

やはり常連の「のぎっこ通信」は、年々紙面が充実しており、昨年度はついに全国2位の評価を受けました。その際の審査総評（要約）は「ページ数は少ないものの、見開きページでPTA活動を紹介し、参加した人たちの笑顔から心温まる広報紙になった」。4ページフルカラーで、表紙の淡い色使いはいつもながらで、さすが。審査総評にあるように、見開きページの使い方に特徴があります。特に印象的だったのが2号の「乃木小学校PTAフェスティバル」で、サイズや切り抜き、六角形などの写真をちりばめて躍動感ある楽しい紙面に仕上がっています。笑顔あふれる写真が素晴らしい。惜しいのは3号の見開きページ。メインの先生への質問のスペースに余白がありすぎ、取り囲む写真とのバランスがとれていません。質問コーナーのスペースやデザインなどを考え、写真をもっと大きくするなどの工夫が必要だったのではないのでしょうか。これが審査に響いたようです。

続いて初めて優良賞に選ばれた2紙について。まず「しらほ」は7年前からの欠かさない応募が入賞に結び付きました。最初のころは学校色が強く、これといった特徴もなかったのですが、恐らく他紙を参考にしながら、あるいは意見交換しながら進化していったのではな

いでしょうか。広げると裏表が3ページの開きになる6ページの作り。第200号とあり、記念の意味合いがあったのでしょうか。全クラスの集合写真や卒業生の顔写真がメインとなって、やはり学校色の強さは否めませんが、児童たちの「好きな場所」「好きな教科」「好きな料理」のアンケート結果を載せることがアクセントになっていました。卒業生の顔写真もバックを濃い緑にしたことで浮き上がって見える効果がありました。後は学校色をいかに薄め、PTA活動や地域との連携などを盛り込むか。頑張ってください。

「かがやくひとみと笑顔の子」は、タイトルの長さにまずびっくりしました。こちらも第200号で、これを機に写真を増量し、カラーページにリニューアルしたそうです。1～3号とも6ページのフルカラー。1号は表紙をめくると見開きでPTA役員紹介があり、中でもガンバローポーズのイラストに会長の笑顔が微笑ましく、審査員の心までつかんだようです。審査員からは「伸びしろを感じる」との評価がありました。1、2号とも学校行事が多いのが気になりました。3号の見開きでの親子活動、2、3号の裏面のPTA活動のスペースが増えればぐっと充実してきます。伸びしろのヒントはここら辺にありそうです。

応募いただいた紙を紹介します。

赤屋小「ゆめ」(安来市)、法吉小「ほっき」(松江市)、川津小「らくぎん」(同)、内中原小「内中原」(同)、津田小「まつばら」(同)、竹矢小「ひびき」(同)、木次小「きすき」(雲南市)、長浜小「くにびき」(出雲市)、川波小「Kawanami」(江津市)、益田小「ななお」(益田市)、七日市小七日市小PTA活動新聞(吉賀町)「一以上です」。

中 学 校

応募の固定化に風穴を！

応募数は、前年度と同じ12紙。この数年、12～14紙の間を行ったり来たりしており、メンバーが固定化する傾向にあります。東高西低で、今回は特に浜田市以西からの応募がなかったのが気かりです。今回も県審査で常にトップ争いし、全国コンクールで入賞を重ねている「星雲」と「清流」が満票を得、その存在感が光りました。文字や写真をフル動員？した「星雲」、さわやかな「清流」と、傾向が違う両紙に対する全国コンクールでの評価はどうなのか。昨年度の審査総評(要約)を紹介します。まず「星雲」は「バラエティに富む記事が収められ、飽きさせません。生徒、保護者、教職員などがバランスよく登場していた」。一方の「清流」は「デザイン性のある表紙。モノクロの中面は記事の一つひとつが際立ち、生徒の声、保護者の思いも企画した記事は印象的。毎号のPTAレポートは楽しく読め、学校行事もきめ細かく掲載」と、それぞれの特徴をまとめています。

総評でも触れましたが、この2紙はレベルアップを目指す中学校PTAにとって、とても参考になる存在です。どちらの方向を志向するのか、あるいは両方のいいところを真似るのか。送ってきた広報紙をじっくりと見てください。

まず、一昨年の全国一位になった「星雲」から。予算削減のために減ページを余儀なくされ、これまでの8～10ページが1, 2号は4ページ構成に。減った分を2～4ページの「星雲mimi」の差し込みを出し、PTAのスリム化、学年行事、卒業生の一言、「先生たちの趣味図鑑」などを紹介しています。伝えたいこと、紹介したいことが山ほどあるでしょう。1号では1号では見開きで「PTAって何!？」特集で、組織図や保護者へのアンケート、役員をやった感想、活動報告などをきめ細かく掲載。2号の見開きでは「令和の中学生事情」特集で、スマホ事情、食、読書のススメ、キャリア教育など幅広く、きめ細かく紹介しています。また、3号は一見すると4ページですが、実は8ページで開くと大きな1ページのカレンダーに変身。3年生の一年間を振り返る写真の数々は、きっといい記念になるでしょう。その3号の見開きは「地域ボランティアさんありがとう!!」特集で、学校ボランティアや「八雲の子どもを守るなど様々な活動をこれもきめ細かく紹介しており、生徒を見守る保護者や地域の方の温かい目を感じさせます。

「清流」は全国総評でもあるように、デザイン性のある、さわやかな表紙が一つの持ち味で、桜や緑あふれる風景の中に登校風景や教室などをうまく配置して印象的に仕上げています。モノクロの中面で特に優れているのは、それぞれの企画や記事に生徒や保護者など関係者のコメントが紹介されているところ。担当する文化部で行事ごとに担当者を決めて、印刷前に全員で校正するやり方にしたそうです。原稿依頼を快諾してくれる大人、「清流に載りたい」と笑顔の生徒たちなど、文字通りの総力戦による紙面作り。特に秀逸だったのが2号の見開き特集「職場体験」でした。受け入れ先の警察署、図書館、マーケットなどの関係者が寄せたコメントを掲載。「どんな作業にも真剣に取り組んでいた」「さすがにいい行動、あいさつ、本当に素敵な中学生に来てもらってよかった」などの感想と、真剣に取り組む生徒たちの写真が相乗効果を生み充実した紙面になっていました。ただ1面の教職員紹介は「清流」にしては平凡で、それもトップ扱いはちょっとどうなのかなと。次の「PTAレポート」も全体に白っぽい印象で、写真を増やすなど一考の余地ありでした。「清流」なるがゆえの注文ですのでご容赦を。

続く「ひろばこなん」も県審査で優良賞が続き、令和3年度には優秀賞を取った力を持っています。昨年度は開校50周年で1号の多くのページに大きな「50」が入っています。1, 2号ともフルカラーで、6ページ構成。1号は地色が薄い空色で統一されてさわやかな印象を与えています。2面がちょっと楽しいPTA役員紹介、片面がモノクロ写真の多い記念特集、次が見開きで教職員紹介となり、差し込んだ形の3, 4面を抜いても役員紹介と教職員紹介が同じ色調で見開きとなる工夫がなされています。最終面の定番「お弁当の日」はいつもながら楽しみに拝見しています。ただ記念特集の色調だけが違い、何となく違和感を抱きました。この面のバックにも薄い空色で「50」が入っていたら違和感を抱かなかったと思います。8ページ構成の2号は運動会の写真満載の表紙から始まり、PTA活動報告、乃木ふるさとまつり、湖南フェスタなどの活動がフォトグラフィ的に楽しく、リズムカルに作ってあり印象的でした。また、それぞれのページの下地に校歌の楽譜がちりばめられており、

「こちら編集室」の「思いをちりばめた紙面。細かいところまで注目して楽しんで」との思いは十分に伝わってきました。

最後に紹介する「青陵かわらばん」は、当初 1、2 号の予定が 3 号まで発行されたようです。1、3 号は白地で、1 号は表が役員あいさつなど、裏面が教職員紹介、3 号も校長、会長あいさつと、ありきたりの作り。ところが 2 号は一転して薄青の下地で 4 ページ構成とし、中面に e スポーツ運動会や「学校かくれんぼ慰伊 i n 青陵」の行事を大きな文字と写真を多用して展開。表紙と裏面も運動会や文化祭の様子を楽しく紹介しており、2 号にかけた意気込みが伝わってきました。一つ注文があります。「青陵かわらばん」の題字の大きさ、書体などが各号ばらばらで読み手は戸惑います。ある統一感があった方が、読み手はすぐに「ああ、青陵かわらばんだ」と分かりますので検討をお願いします。

応募いただいた紙を紹介します。

安来三中「PTA 神塚」(安来市)「松江二中「新樹」(松江市)、島根中「かけはし」(同)、河南中「まさき」(出雲市)、志学小中「TEAM志学PTA便り」(大田市)、江津中「いわみ野」(江津市)、江東中「佐古が丘」(同)、桜江中「わかあゆ」(同) — 以上です。

すべての広報紙にコメントしたいところですが、スペースの関係で割愛させていただくことをお許してください。